

## 世界史 B

1

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

地中海の東側に位置する小アジアからメソポタミア、エジプトにかけての地域は、ローマ人から「太陽がのぼるところ」を意味する（ 1 ）と呼ばれた。これは現在もこの地域の通称となっている。ここでは古くから牧畜や農耕が行われ、大規模な定住がすすみ、都市が発達して高度な文明が栄えた。

エジプトでは前3000年ごろ統一国家が成立した。数多くの王朝が入れ替わりつつこの地を支配し、それら<sup>(a)</sup>の時代は古王国・中王国・新王国の3期とそれに続く末期王朝に区分される。古王国は（ 2 ）を、新・中王国は<sup>(b)</sup>（ 3 ）を都とした。

前14世紀（ 4 ）の治世のころ一時期（ 5 ）が都となった。（ 4 ）は従来の多神教を否定し、<sup>(c)</sup>太陽そのものを唯一神（ 6 ）とする宗教改革を行ったが、王の死後改革は挫折した。

前1275（あるいは前1286）年、エジプトは（ 7 ）の治政下に（ 8 ）で<sup>(d)</sup>ヒッタイトと戦った。この時結ばれた講和条約は、現存する最古の国際条約とされている。エジプトは前671年にはアッシリアに占領され、前525年には（ 9 ）朝ペルシアに征服されるなど衰退していった。

問1 文中（ 1 ）～（ 9 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、A. ここで用いられた象形文字のうち神殿・墓・公式碑文などに使用された文字を何というか、カタカナで答えよ。B. またこの文字を19世紀に入ってから解読することに成功した人物の名を答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、アジア系のヒクソスが一時期デルタ地帯に王朝を建てたが、その後のエジプト人による再統一によって始まる時代区分として適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。  
ア. 古王国    イ. 中王国    ウ. 新王国    エ. 末期王朝

問4 下線部(c)に関連して、以下の文を読み文中の空欄（ A ）・（ B ）にあてはまる語句を答えよ。  
古代エジプトの人々は、死後の世界を支配するオシリス神の審判を無事通ることを願って（ A ）と呼ばれる宗教文書を、植物から作られた（ B ）に書いて作成し、墓に収めた。

問5 下線部(d)に関連して、ヒッタイト人がすぐれて用いた、農業の生産力を高め、戦車の使用とともに強大な軍事力の支えとなった技術は何か、答えよ。

## 2

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

712年に唐の皇帝に即位した（ 1 ）は、治世の前半では政治の引き締めにつとめて安定をもたらした<sup>(a)</sup>が、人口の増加や商業の発達にともない農民のあいだに貧富の差が開き、没落して逃亡する農民が増えて、均田制・租調庸制とともに（ A ）もくずれていった。かわりに（ B ）が採用され、その指揮官である節度使が辺境の防備にあたるようになった。

（ 1 ）の晩年には寵姫（ 2 ）の一族が実権を握り、それに反発した節度使の（ 3 ）とその部将（ 4 ）が755年に反乱を起こした。乱は763年に鎮圧されたが中央政府の統制力は弱まり、有力な節度使が地方の行政・財政の権力をにぎって自立の勢いを示した<sup>(b)</sup>。唐は財政再建のため、780年、租調庸制にかわって両税法を採用した<sup>(c)</sup>。塩の専売も重要な財源となり、密売者はきびしく取り締まられたが、塩の密売人の<sup>(d)</sup>（ 5 ）が875年に反乱を起こし、880年に唐の都を陥落させるなど勢力を伸ばした<sup>(e)</sup>。この乱は、反乱軍から寝返って後に節度使に任命された（ 6 ）と、突厥系沙陀族出身で節度使に任命された李克用によって884年に鎮圧されたが、中央政府の統制力は失われて節度使が割拠する状態となった。（ 6 ）は李克用と対立して優位に立ち、907年に唐を滅ぼし（ C ）を建国したが、912年に子の朱友珪に殺害された。朱友珪も913年に反乱により殺害され、後を異母弟が継いだが国情は安定しなかった。一方、李克用は908年に病死したが、子の李存勖が923年に（ C ）を滅ぼし（ D ）を建国した。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる人名を答えよ。

問2 文中の空欄（ A ）・（ B ）にあてはまる兵制を、それぞれ漢字3文字で答えよ。

問3 文中の空欄（ C ）・（ D ）にあてはまる国名を、それぞれ漢字2文字で答えよ。

問4 下線部(a)の時期の治世を後世に褒め称えたことばを何というか。4文字で答えよ。

問5 下線部(b)に関連して、当時モンゴル高原を支配し、唐から援軍を要請されて反乱鎮圧に協力した、トルコ系騎馬遊牧民の国家名を答えよ。

問6 下線部(c)のような地方勢力を何というか。漢字2文字で答えよ。

問7 下線部(d)の内容として最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 全民衆に一律に農地を支給し、一律に同額の税を課した。

イ. 資産額に応じた戸税と、耕作面積に応じた地税を夏・秋の年2回課した。

ウ. 丁税（人頭税）と地税を一括して銀で納めさせた。

エ. 丁税を廃止し地税に一本化した。

問8 下線部(e)の都市名として適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 長安    イ. 洛陽    ウ. 開封    エ. 成都

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

中世のヨーロッパでは、地中海を通じてイスラーム勢力と軍事的、政治的な接触のみならず、商業的、文<sup>(a)</sup>  
化的な交流もなされていた。

イタリアでは14世紀に入ると、現世的な人間らしさを尊重し、権威から自由で、理性や感情の活動を重視するルネサンス（「再生」を意味する）と呼ばれる潮流がみられるようになる。この地域は中世を通じて、<sup>(b)</sup>  
教皇領、有力貴族の領地、都市国家などが成立し、政治的には分裂状態<sup>(c)</sup>にあった。各地の有力者は文筆家、  
芸術家、建築家などを競い合うように積極的に保護し、文化が興隆した。フィレンツェ共和国<sup>(d)</sup>を本拠地とする  
メディチ家<sup>(e)</sup>はとくに有名で、商業活動によって築いた莫大な富で文化を支援するとともに政治力を発揮した。

問1 下線部(a)に関連して、中世末期のイスラーム勢力との交流を通じてヨーロッパにもたらされたものとして誤っているものを次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 製紙法    イ. 羅針盤    ウ. 地動説    エ. 医学

問2 下線部(b)に関連して、下のア・イの問いに答えよ。

ア. 以下の文を読み、文中の空欄（ A ）・（ B ）に当てはまる語句を答えよ。

この文化潮流は中世の継承と近代の端緒という両面を備えている。17世紀初頭にスペインで発表されたセルバンテス作の小説『（ A ）』はその一例である。主人公は中世から伝わる（ B ）を読みふけり、それを実践しようとして周囲の人々との間に食い違いを生じさせる。その姿がおかしみを込めて描かれている。

イ. ルネサンス時代の代表的な建築物を、次の A ～ D から1つ選び、記号で答えよ。

A. ピサ大聖堂    B. サン=ピエトロ大聖堂  
C. ケルン大聖堂    D. アミアン大聖堂

問3 下線部(c)に関連して、イタリアの分裂状態に終止符を打ち、これを統一したのはイタリア王国である。

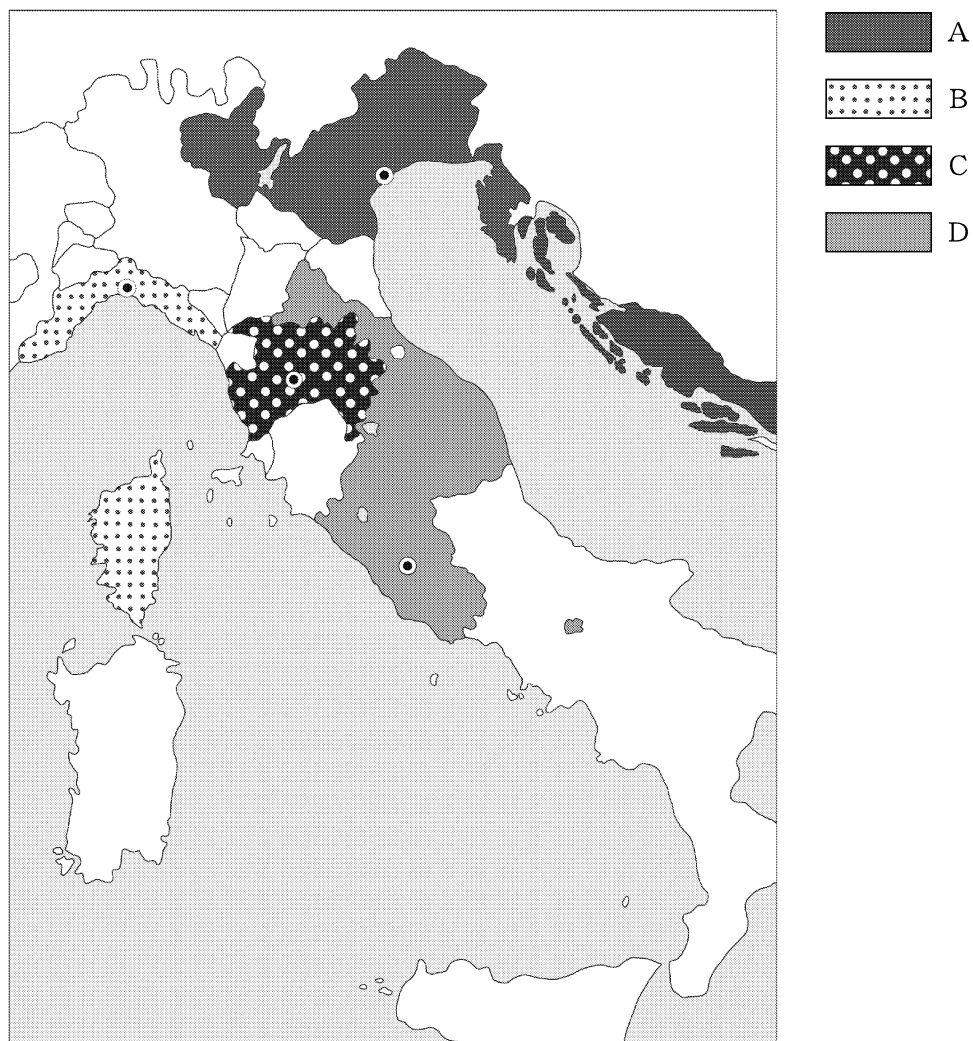
ア. イタリア王国が成立したのは何年か、イ. またこの時の国王の名を答えよ。

問4 下線部(d)に関連して、下のア～ウの問いに答えよ。

ア. ミケランジェロがフィレンツェの自由と独立の象徴として作成した、高さおよそ6メートルの作品の名を答えよ。

イ. フィレンツェの政治思想家で『君主論』を著した人物の名を答えよ。

ウ. 図は14世紀ごろのイタリアの状況を表している。フィレンツェ共和国は A ～ D のどれか、記号で答えよ。



問5 下線部(e)に関連して、この一族の出身者でサン=バルテルミの虐殺を主導したとされている人物を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| ア. スペイン王フェリペ2世      | イ. フランス王妃カトリーヌ=ド=メディシス |
| ウ. フランス王妃マリ=アントワネット | エ. 教皇レオ10世             |

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

オスマン帝国は、かつては西ヨーロッパをおびやかす勢力をほこっていたが、ヨーロッパの急激な社会的・技術的な発展により、しだいに力関係が逆転していった。1683年の第2次（ 1 ）の失敗は、軍事面におけるオスマン帝国の衰退の始まりとなり、1699年の（ 2 ）条約では（ 3 ）にハンガリーの大半を奪われ、初めて大規模な領土喪失を経験した。18世紀に入ると、ロシアが脅威となり始めた。オスマン帝国は1768年からの数次にわたるロシアとの戦争で敗れ、15世紀以来のクリム=ハン国への宗主権を失った。これによりロシアは黒海に進出するようになり、さらにオスマン領内の正教徒への保護権を得た。また1798年には、<sup>(a)</sup>（ 4 ）が指揮するフランス遠征軍がエジプトを占領した。この事件は、当時のイスラーム世界に対する「西洋の衝撃」を代表するものとなった。

さらに19世紀になると、ロシアは1831年に勃発した第1次（ 5 ）戦争でオスマン帝国を援助し、黒海から地中海に抜ける（ 6 ）両海峡の軍艦独占通航権を得ようとした。しかし、ロシアのこうした思惑は、オスマン帝国の領土を保全しつつ帝国全体を従属させようとした（ 7 ）の干渉によって失敗に終わり、さらに（ 7 ）は1838年、オスマン帝国との間で不平等条約を締結した。その後、1853年には、ロシアが正教徒保護を口実にオスマン帝国に宣戦してクリミア戦争が勃発し、<sup>(b)</sup>（ 7 ）とフランスがオスマン帝国側について参戦した。この戦争で敗れたロシアは、パリ条約で（ 6 ）両海峡の外国船通航禁止と、黒海の中立化を認めるにいたった。こうしたオスマン帝国への影響力拡大や領土分割をめぐるヨーロッパ諸国間の係争は「（ 8 ）」と呼ばれた。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、18～19世紀にロシアが黒海の制海権獲得と地中海進出をはかった政策は何と呼ばれるか、漢字4文字で答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、この戦争の戦地におもむいて傷病兵の看護と野戦病院の改革に貢献し、（ 7 ）に帰国後は学校を創設して、近代的な看護制度を確立した看護師は誰か、答えよ。